

Y18a XRISM におけるアウトリーチ活動の報告と課題

生田ちさと、堀内貴史 (JAXA)、田代信 (埼玉大学/JAXA)、XRISM EPO チーム

X線分光撮像衛星 XRISM (クリズム) は、2016年に運用を停止した X線天文衛星 ASTRO-H が担っていたサイエンスを早期にかつ確実に回復することを目的とした国際共同プロジェクトである。XRISM は ASTRO-H の開発成果を最大限活用し、一方で受け継いだ教訓を活かして開発が行われた。これはアウトリーチ活動においても同様である。本講演では、XRISM プロジェクトがこれまでにに行ったアウトリーチ活動を紹介し、現状の課題と今後の方針を議論する。

打上げ前に行った XRISM プロジェクトのアウトリーチ活動では、まずターゲットや目標の設定と、どの時期にどのような活動を行うかの計画を作成した。また、NASA とは定期会合をもち、打上げ前の情報発信について擦り合わせたり、制作物を共有したりするなど、共同でアウトリーチ活動を進めた。

XRISM の本格的なアウトリーチ活動が始まった時期、まだ新型コロナウイルス感染防止対策のための制限が強かった。そのため、アウトリーチは、X (旧 Twitter) や note+, オンライン講演会といったインターネット上での活動が主となった。顕著な成果はオンライン講演会である。ライブ参加者数は 100 名以上だったが、YouTube のアーカイブは視聴回数が 3000 回から 87 万回 (2023 年 12 月現在) あり、多くの人々の関心を集めることに成功した。また、NASA と共同でアウトリーチを行うことで、海外の人々にも XRISM 関連の情報を届けることができた。

衛星は打上げ時に関心が集まるため、衛星の認知度を上げたり、興味を持ってもらうきっかけを作るチャンスである。打上げライブ番組は、YouTube 急上昇ランク 3 位を記録 (2023 年 9 月 8 日) し、大きな反響があった。